# 会議ではない「話し合い」

## 地域づくり高研修“話し合い”が拓く地域づくり

櫻井 常矢 准教授（高崎経済大学）

6月28日、84名の参加者のもと、高崎経済大学の櫻井常矢准教授を迎えての研修会が行われました。櫻井先生は、地域コミュニティ再生支援事業アドバイザーで地域活性化の仕掛け人です。ユーモラスな文章で綴られた講師づくりのヒント、参加者は、ワークショップ（話し合い）で自分たちの地域について話し合いました。

### 行政には限界がある

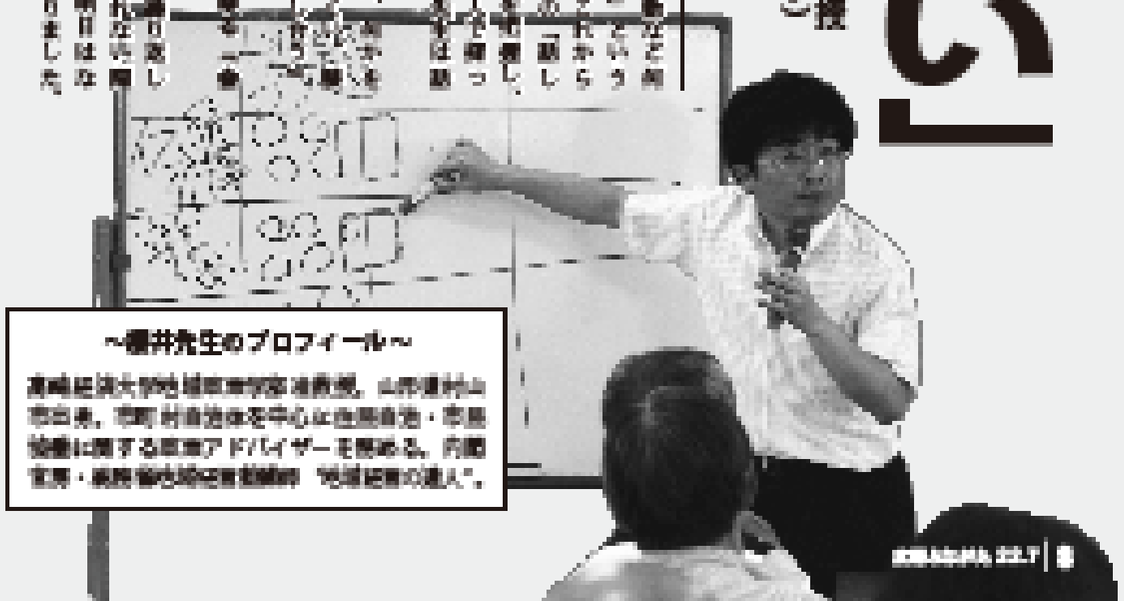
「会議では解決できない問題がたくさんあります。よくありがちな『何でも会議出席』から抜け出し、地域の形を変えなくてはなりません。手厚なサービスを提案しなければならない会議に、地域ごとに異なる課題を提案してもらうことは限界があります。」と話す櫻井先生。地域には高齢化や老い手不足など多様な課題があること、また地域、櫻井先生は、それらを克服するためには、そこに住む人たちの「話し合い」が重要であることを強調しました。

みなさんの地域は「話し合い」ができていますか？

### 本当に必要なものは？

「地域づくりは地域の役員などの限られた男性だけではできません。女性や若者の参加も地域で支えることが良い結果と結びついている事例を紹介。また、『お年寄りの暮らなった地域は、形を変えていく必要がある。生きていくのが難しい状況なこの時代で地域の方の負担を減らしていくのも一つの方策。しかし、そこで大切なのは『本当にこの地域で必要なものは何か』を話し合うことです。」と話しました。

みなさんの地域に本当に必要なものは何ですか？



**～櫻井先生のプロフィール～**

高崎経済大学地域政策学部准教授。山形県村山市出身。市町村自治体を中心に自治会・市民協働に関する政策アドバイザーを務める。内閣官房・総務省地域再生支援部門「地域応援の達人」。

# 「ワークショップ」をしてみよう

5月、櫻井先生は名古屋市内の「市民会館」の分科会「ワークショップ」を行われたのです。題目は「話し合い」という名の会議で話し合いの実践がかいくぐりました。

**【ワークショップの目的】**

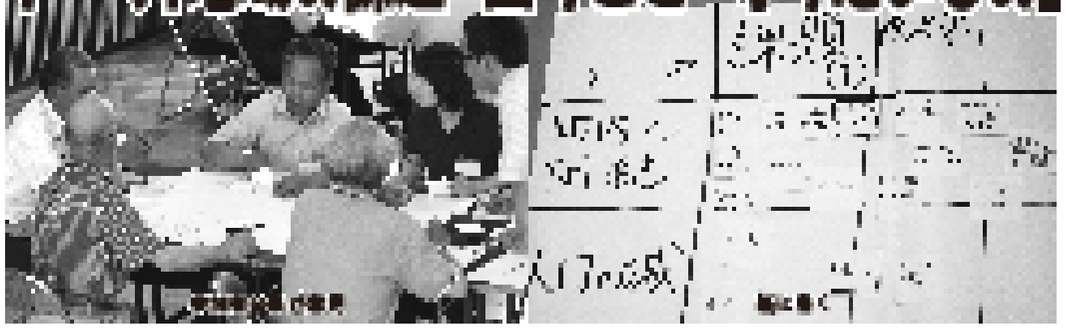
- 「会議」は「話し合い」である　「会議」の目的・話し合うテーマ
- 「会議」の方法は話し合いの実践を通じて学び合うことである

**【ワークショップの手順】**

テーマを決める → 意見を出し合う → 共通点を見つける → 共通点をまとめる → 意見を交換する → 共通点を見出す

**【参加者からの】**
大切な言葉・ペン・ふせん紙
地域を思う心

## テーマ「地域の課題・困りごと・守りたいもの」



今回のワークショップのテーマは、「地域の課題・困りごと・守りたいもの」。10分ルールでお話合いが進められ、参加者の意見が出し合われ、ワークショップは、盛り上がりました。

- 高齢者の問題
- 子育て支援
- 交通機関の問題
- 交通機関の不便さ・高齢者の足
- 子育て・教育・学校
- 高齢者の問題・介護
- 地域の人間関係
- 地域の人間関係・コミュニティ
- 地域の人間関係・コミュニティ
- 地域の人間関係・コミュニティ